

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2570101028		
法人名	株式会社 関西サンガ		
事業所名	琵琶湖大橋グループホーム ユニット1		
所在地	滋賀県大津市本堅田4丁目4-18		
自己評価作成日	平成25年1月20日	評価結果市町村受理日	平成25年3月14日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域の方々との触れ合いを大切に周辺地域との関係構築にも尽力し、地域に根付いた施設になる努力をしております。  
御入居者様には、ご自分で出来ること、好きな事を楽しみながら、生き生きと過ごして頂ける様、たくさんの選択肢を用いて、「自立支援」「自己決定」をしていただけるよう利用者本位の毎日を全職員が一丸となり取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ニッポンアクティブライフクラブ ナルク滋賀福祉調査センター		
所在地	滋賀県大津市和邇中浜432 平和堂和邇店 2階		
訪問調査日	平成25年2月17日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

本事業所はJR堅田駅から琵琶湖畔側の新興住宅地に立地する3ユニットの事業所である。今年度の事業所運営課題を「地域との関係構築に尽力し、利用者の自立・自己決定を支援する」としている。利用者一人ひとりの思いを把握して、家事やレクリエーション、行事等に楽しみながら参加出来る環境作りを基に寄り添いながら力添えをしている。献立を考えるとところから、買い物、調理、味付け、味見等と能力に応じて昼食作りを楽しんだり、家族の思いを汲んで、従来行けなかった場所へのドライブも実現している。職員が厨房で利用者と一緒に食事を作り、出来上がりを待っている利用者が「ワイワイガヤガヤ」囁きだしている様子や職員が常にレクリエーションの盛り上げや外出の工夫を提案している。また、自治会の会議を事業所で開催するなど地域との触れ合いを深める努力をしている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「基本理念」「介護サービスの基本方針」「品質方針」を作り上げ実践につなげるよう努め、ユニット内研修にて唱和している	グループ共通の理念を「私達は、高齢者社会で果たす役割の重大性を自覚し、明るく元気ですこやかなヒューマンライフを支えます」と謳い、玄関や事務所に掲示し、ユニット会議の唱和で共有して実践に努めている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念を全職員で創りあげる事を望みたい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域文化祭への作品出展や月1回の清掃活動にも積極的に参加し交流を深めている	地藏盆や運動会等に参加したり、自治会の会議に事業所スペースを提供して交流を深めている。現在、近所の保育園との交流は中断している。	事業所での自治会会議の場を活用して認知症との関わり方を発信する事を望みたい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度開かれる運営推進会議において情報の発信を行っている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、自治会、民生委員、有識者、家族代表、当施設職員が参加し、十分な報告や意見交換等を行い、サービス向上に活かしている	2カ月に1回開催し、今年度課題の評価や家族、地域との交流等について話し合っている。家族代表の出席はなく、自治会代表、民生委員も欠席がちで、行政と事業所だけで開催した時もある。	災害時や地域に開かれたサービスを目指すために地域代表の出席が不可欠である。開催日時を工夫して家族代表や地域代表の出席を望みたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	大津市介護保険課とは常に各種相談や報告を行い、関係を築くよう努めている	介護保険課には訪問して、包括支援センターには運営推進会議で事業所の実態報告やインフルエンザ予防等の相談をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設全体やユニット内でも研修の機会を設け、全職員に周知徹底し、十分な理解をした上で取り組んでいる	ユニット会議の場でマニュアルや社外研修報告書を使用した研修を行い、全職員に身体拘束をしないケアの周知、徹底を図っている。玄関や階段への扉は施錠していない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設全体やユニット内でも研修の機会を設け、全職員に周知徹底し、十分な理解をした上で取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関するマニュアルをいつでも閲覧できるように周知している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約等の説明を十分に行い、理解・納得をいただいている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃よりコミュニケーションを図り、御家族様の来所時には意見・要望を出していただけよう努めている	年に1回の家族懇親会や家族の来訪時に意見や要望の情報を得ているが記録はしていない。家族の意向をくみ取り、職員が同行支援して長距離ドライブを実現した事例がある。	得られた情報は記録し職員が共有する事を望みたい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常日頃より職員の意見を聞きとり、会議等の場にて共有し反映している	ユニット会議や日常のケア現場で職員から聴取している。意見や提案は責任者会議で議論し運営に反映している。職員の企画による外出支援を実行した事例がある。年に1回、施設長と面談をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の人事考課を行い、状況を把握し役割等を持ち、向上心をもって働ける環境整備に努めている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	常に1人1人の職員の力量等を把握し資格取得や研修への参加等、掲示板で周知し情報を提供している		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福祉職の集いの場に参加し意見交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	常にコミュニケーションの中での会話に耳を傾け、御本人の生活歴、趣味等を知り、御家族様も交えながら安心していただけるよう努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	常日頃から御家族様とのコミュニケーションを十分に行い、気軽に不安やご要望が言える関係づくりに努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅時の状況等の把握に努め、必要とされる支援が行えるよう柔軟な対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人、お一人の人格や人権を尊重し良好な関係を築けるよう努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	何事にも御家族様との連携を保ち、御本人と御家族様の思いを大切にされた良好な関係づくりに努めている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	御本人の大切にされてきたことが現在でも活かされるよう努めている	馴染みの人や家族が来訪し易い様に昼食時や夜間何時でも受け入れている。馴染みの美容院での会話を楽しみにしている利用者への送迎支援も実施している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	常日頃よりお一人お一人の状況等をスタッフ間で話し合い、ご入居者様同士の交流や良好な関りが築けるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	常にご入居者様や御家族様が安心していただけるよう必要に応じ相談や支援に努めている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	これまでの生活歴や御本人の意向等の把握に努め、御家族を交えて情報を集め、常にコミュニケーションの中から御本人の思いを汲み取れるよう本人本位に検討している	利用者との日常的なコンタクトの中から得られた情報を、利用者一人ひとりに用意した小さなノートに記録して職員間で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や暮らし方等、御家族様からも情報を集め、これまで利用されていたサービス事業所との連携を図り、把握に努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	これまでの生活の把握に努め、常にご入居者様の状態、状況を見極め、現状の把握に努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ユニット全職員がアセスメントやモニタリングを行い、御本人、御家族様と常に話し合い、意見やご希望等を反映し、計画作成者が作成している	利用者・家族・職員の意見を反映し、計画作成担当者が作成する。計画は3か月毎と状態の変化があった時に見直して家族の承認と確認印を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	常日頃から職員間で話し合う機会を持ち、記録に残し、細かな変化等見直しを行い介護計画の修正も行っている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に臨機応変に柔軟に取り組んでいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	お一人お一人の能力を見極め、最大に発揮していただける、安全で豊かな毎日を心がけ支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期的な訪問診療や協力医療機関の専門医への受診を行い、連携を保ちながら安心な環境を心がけている	かかりつけ医と協力医療機関が同一の利用者が多く、訪問診療を受けている。協力医療機関以外のかかりつけ医と専門医への受診は職員が付き添っている。いずれの受診情報も家族と共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時や体調不良時などに情報等を伝え、迅速な対応ができるように支援している		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医療機関と十分に情報伝達を行い、良好な関係づくりを行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	あらゆる場面で話し合う機会をもち、十分な説明と同意を得ている 職員全員に周知し、良好な関係作りに取り組んでいる	重度化対応介護指針を作成して延命治療に関する確認書と内容確認の同意書を利用者全員と結んでいる。終末期の対応は家族と頻繁に話し合っているが、事業所方針は構築されていない。	終末期に向けた事業所方針の構築を望みたい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に急変時対応マニュアルを全職員に周知し、繰り返しユニット内研修にて学ぶ機会をもち実践力を身につけている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年4回、消防署の立ち合いの訓練や毎月行われる自主訓練や消防研修を行い、全職員が繰り返し学べるように支援している	避難訓練は夜間想定、消防署の立ち合いを含めて、年4回実施している。訓練不参加者には消防研修を実施して全職員の意識高揚を常に図っている。食料と飲料水は3日分位備蓄してある。	近隣地域の自治会など諸団体の積極的な協力が得られる方策の検討を望みたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	繰り返しユニット内でのカンファレンスで話し合う機会をもち、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけを徹底し、努めている	職員は、ユニット会議で行われる外部研修報告書をベースにした内部研修や日常のケア現場での話し合いで認識を高めて実践している。個人ファイルは事務所の鍵付きロッカーに保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常にコミュニケーションの中で御本人の思い聞き、確かめ、捉えることで自己決定できる環境を作るよう働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝の起床から、お一人お一人違った生活スタイルを尊重し、御本人が過ごしたい生活が実現できるよう希望に添うよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容等の活用やユニット内にて整容等を行う時間を作り、おしゃれを楽しむことができるように支援している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューを決め、買出し、調理など食事を作り始めるところから後片付けまでの過程を職員と一緒に楽しみ支援している	テレビを見たり、歓談したり、99歳の利用者が時間に制限なく1人で食事をしたり、職員も同じ食事を一緒に摂って全員が食事を楽しんでいる。月に何回かは外食や行事食を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養管理のできている献立を中心に摂取量、こまめな水分摂取等にて工夫し、一日の正確な記録を行い、お一人お一人に合った支援を行っている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	琵琶湖大橋病院の訪問歯科と提携し、口腔内の清潔保持等、指導・支援していただき、毎食後の口腔ケアを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	お一人お一人の排泄状況等の把握に努め、自立に向けた取り組みを行い、カンファレンス等で評価している	各人の排泄パターンを把握し、自立に向けたトイレ誘導を支援している。5人の利用者が「おむつ」や「パット」の使用からリハパン使用に、リハパン使用の利用者は全員が布パンツに改善している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	常に排便状態を把握できる環境を作り、十分な水分、運動等、個々に必要な予防に取り組んでいる		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	常にいつでも入浴していただける言葉かけを行い、個々の希望にそった支援を行っている	2日に1回、利用者の希望時間での入浴が基本だが毎日入浴してる人もいる。入浴を忌避する利用者には毎日全身清拭を行っている。季節の菖蒲湯、柚子湯も楽しみ、最寄りの足湯場へ外出する利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お一人お一人の状況・状態を把握し常に安心して過ごしていただける環境に努め支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬や服薬に関する正しい理解をし、常に状態把握に努めている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	常にコミュニケーションを図り、ご本人が求めておられることを活かせるよう職員間での情報の共有を充実させケアに活かしている		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	常にご希望にそえるよう職員間が協力し、外出できる環境を提供している また、定期的に季節に応じた外出を計画し支援している	気候の良いときは事業所周辺を散歩する。初詣や花見、紅葉狩り等の季節のイベントと月に1回程度の外食ドライブを楽しんでいる。利用者家族の思いを汲んで家族と一緒にの外出も支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お一人お一人の御希望にそい、自由に使っただけよう努めている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族様と連携し、御希望にそえるよう支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に心がけ、ご入居者様と一緒に意見なども取り入れながら居心地よく過ごせる工夫を実践している(清潔、季節に応じた作品、配置等	3ユニットは同一のレイアウトだが壁面を飾る作品などはユニット毎に趣が違っている。趣は違うがいずれも落ち着いた雰囲気季節を感じる工夫をして居心地よい。トイレや浴室も清潔である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	臨機応変に対応している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時と変わらぬ住環境で馴染みの家具や備品を持ち込んでいただき、居心地よく過ごしていただける工夫を行っている	全室が洋室仕様だが希望で畳も敷くことが出来る。備え付けの洋服ダンス以外は馴染みのものを持ち込んで居心地よく過ごす工夫をしている。愛着のあるベッドを持ち込んでる利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	お一人お一人の身体能力に合わせ、必要に応じて環境を整え工夫している		

## 2 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域との交流について事業所のスペースをお貸ししたり、地域の催しものに参加してはいるが、密な交流はできていない	地域との交流を日常的に行い、関係性を深めると同時に、介護の知識や技術のレクチャーや介護についての地域の相談窓口になる	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の回覧板に事業所だよりを掲載することで 事業所そのものの理解を深めていただく</li> <li>・地域の方も参加できる行事を考案し実践する</li> <li>・近隣の保育園と相互交流を再開する</li> </ul>	12ヶ月
2	3	特定の出席者のみの運営推進会議が目立ち、議題内容の充実性が乏しい 御家族の参加機会も少なく、広く意見交換や情報収集ができていない	運営推進会議の日時や議題内容を工夫し、参加していただく意義のあるものにする、また御家族の方にも複数名、会議への出席をお願いし、広く意見交流ができる環境整備を行う	<ul style="list-style-type: none"> <li>・包括支援センターの方の出席が必須のため、行政の業務時間は難しいが、できるだけ多くの方が出席しやすい日時に調整する</li> <li>・議題内容の工夫や多くの意見を取り入れられる環境を整える</li> </ul>	12ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。